

を含む空間の拡がりをとらえた現代作品を紹介した。ここにその成果を一部報告する。

同館では、一年間にわたって奥行き知覚やパノラマを特集する映像史+現代作品のシリーズ「3D@スペクタクル2000」展を開催中であり、本展はその3つめの特集パートにあたる。ロンドン万博のステレオ写真・ビューワ、明治期のパノラマ、写真発明以前の3Dピープショー(テアトル・エンゲルブレヒト=のぞきからくり)など、多くの歴史的な3D映像装置とともに、現代に活躍する作家たちの表現が紹介された。路上観察を行い、特定の芸術家に拠らない「非人称芸術」を展開する非ユークリッド写真連盟は、ユークリッド幾何学的な遠近法から脱却したユニークな3Dクラフト《フォトモ》や《ツギラマ》によってサブカルチャー的な人気を博している。また、河口洋一郎のインタラクティブ・インスタレーション版「GEMOTION」は、CG映像が情感を持った生き物のように反応する、視覚・触覚・力覚などで体験できるバーチャルリアリティ作品プロジェクトである。蠢く映像のスクリーンに触れ、押さえてみると、情感を持つ遺伝子(GENE+MOTION)としての生物が反応してスクリーンを押し上げ、吼える声や映像もそれにつれて多様に化する。IAMASにも滞在していたハンガリーのメディアアーティスト、タマシュ・ヴァリツキーによる「Focus II」も、同大学ならびに山元史郎氏の協力を得て、会期中から公開された。いずれのインタラクティブ作品も好評で、暗い展示室内で歴史展示を見慣れた参加者たちも、自らが「GEMOTION」の映像の中に没入し、触覚的スクリーン「FEELEX」に驚き、作家ヴァリツキーとパーソナルな関係を結ぶ人々に視覚的焦点が移りゆく「Focus II」の空間に見入って、新たな意味合いを持ち始めた「3D」への興味を喚起されていた。

会期中に関連事業として「絵本学会・日本アニメーション学会・日本マンガ学会設立準備会合同シンポジウム」、嵐山光三郎/野地朱真/原田大三郎/庄野晴彦によるCG連続ワークショップ、非ユークリッド写真連盟の「カメラ・オブスクラからフォトモへ」ワークショップ、アーティストトーク(河口洋一郎+岩田洋夫)・ICAT2000報告(高橋季穂・IAMAS助教授)を開催。さらに、3階展示室での「AIR-アーティスト・イン・レジデンスとIAMAS」展(<http://www.iamas.ac.jp/>)とのリンクを行い、タマシュ・ヴァリツキー/タミコ・ティール/フランクリン・ジョイス/ウスマン・ハック/リュック・クールシェヌらの作品を見ながら、東京工芸大学の学外授業(森山朋絵担当「映像現象文化論」)を実施した。これから恵比

寿を舞台に展開されるメディアイベントでも、さまざまなVR・インタラクティブ作品が公開される。

テーマ展の最終パート(「3D@スペクタクル2000」の最後の特集パート)の「3D@キャラミックス・ドットコム」では、3月13日から当館と恵比寿ガーデンプレイスを画以上に開催される文化庁メディア芸術祭企画展『キャラミックス・ドットコム』などの一連の事業と連携し、同展キュレーター伊東順二氏の企画協力を得て、3D映像やキャラクターの特集展示を行う。併せて、会期中にワークショップを開催。本展は、モンキー・パンチらによる大型レンチキュラー、さとうりさや村井啓乗の大型バルーンによる立体作品といった多様な現代作品を通して、新世紀のスペクタクル(絶景)を体験する試みである。

## ◆ CSCW2000 (ACM 2000 Conference on Computer Supported Cooperative Work) 参加報告

小山慎哉

筑波大学

(Newsletter Vol. 5, No. 12より転載)

2000年12月2日から6日にかけて、米ペンシルバニア州フィラデルフィアで、ACMの主催する国際会議「CSCW2000」(参考サイト：<http://www.acm.org/cscw2000>)が開催され、今回初めて参加した。

CSCWとは、Computer Supported Cooperative Workの略で、複数の人々がいかに共同で作業を行い、コンピュータや関連技術が集団行動にいかにか影響を与えるかということの研究対象とする分野である。この会議は2年に1度開催されており、今回で14回目を迎えた。

今回の会議では、複数の人間による共同作業を支援するシステム(グループウェア等)の提案をはじめとして、共同作業に関係する現場の調査や問題点の指摘などについても議論が行われた。この学問分野の性格ゆえ、工科大学や企業のみならず、社会学や認知科学、心理学、経済学などさまざまな分野からの参加があった。日本人の参加者は十数名程度で、全体の参加者数から比べるとかなり少数であった。

2日、3日には、workshopやtutorial、doctoral colloquiumが行われ、4日から6日に論文発表やパネルディスカッションが開催された。論文は約200件の応募があったということで、その中から採択された36本の論文が発表さ

れた。発表されたグループウェアの多くはソフトウェア的なもので、アウェアネス支援や遠隔会議システム、データ共有システムなど様々なコラボレーション支援システムが提案された。また、システムの利用に関する統計調査や、システムを介した共同作業に関するエスノグラフィ的研究など、社会学的な報告も多く見受けられた。

また、ビデオ論文についても募集があり、提出のあった13本のうち8本が採択され、CD-ROMとして参加者全員に配布されたほか、会議が行われたホテルのテレビチャンネルで上映された。

論文発表会場は2つしかなかったので、会場ごとの聴衆は相当多くなり、活発な議論が行なわれた。また、一方の会場で時々パネルディスカッションが開催されており、招待講演も合わせて5本のパネルディスカッションがあった。

日本からの発表は、筑波大の葛岡氏らによる遠隔操作型ロボットを用いた遠隔指示システムに関する研究、筑波大の矢野氏らによるロコモーションインタフェースを用いた歩行リハビリ支援システムに関する研究、そして元京都大（現UCLA）の山内氏によるオープンソースソフトウェアの開発がいかに成功したかに関する調査の報告があった。前の2つの発表は、Remote Guidanceのセッションで連続して発表された。

今回のCSCWは、2002年に開催される。開催地は未定だが、米西海岸で行なわれる予定である。また、この会議と密接な関係をもつ会議としてECSCW2001 (the Seventh European Conference on Computer Supported Cooperative Work)があり、これは今年9月にドイツのボンで開催される。興味のある方は<http://ecscw2001.gmd.de/>を参照されたい。

## ◆ IEEE PCM 2000 参加報告

小木哲朗

通信・放送機構

2000年12月13日～15日、オーストラリアのシドニーで開催されたIEEE PCM2000 (The First IEEE Pacific-Rim Conference on Multimedia)に参加した。この会議は1996年から台湾で行われてきたISMIP (International Symposium on Multimedia Information Processing) という国際会議がその前身であり、2000年から環太平洋地域でのIEEEの国際会議として生まれ変わった。

開催地となったシドニーは、昨年オリンピックが開かれ

たこともあり馴染みのある街であったが、南半球に位置しているため12月というのに夏の真っ盛りであった。今回の会議も夏休み中のシドニー大学を利用して行われた。

研究発表は全部で98件あったが、その約3分の1はオーガナイズされたSpecial Sessionとして行われた。参加者は、北米やヨーロッパを含め各地から集まっていたが、開催国のオーストラリアを別にすると、日本、台湾、中国、シンガポール、香港等、アジア諸国からの参加者が多いのが特徴であった。日本からは12件の研究発表が行われた。

会議の内容はマルチメディアということで、データベース、情報圧縮、暗号等、幅広いテーマを扱っているが、バーチャルリアリティに関連の深いセッションとしては、“Modeling and Interaction for Virtual Visual Space”、“Human Computer Interaction”、“Virtual Auditory Space”等があった。筆者等は“Modeling and Interaction for Virtual Visual Space”のセッションで研究発表を行ったが、このセッションでは、東京大学の池内先生から鎌倉の大仏のモデリング、筆者等がビデオアバタを用いたコミュニケーション、カーネギーメロン大学のTsuhan Chen先生がネットワーク仮想空間、東京大学の相澤先生から空間共有コミュニケーション、NTTの河野氏からCAVE間通信、NHKの山内氏からバーチャルスタジオ等の研究発表が行われた。画像処理によるリアリティの高いモデリング技術から、実画像を用いた空間共有技術へと話題がつながり、非常に興味深いセッションとなった。

また、会議中のバンケットはシドニー湾ディナークルーズで行われ、海の上からハーバーブリッジやオペラハウス等の美しい夜景を眺めての食事は、楽しい思い出にもなった。なお、2001年のIEEE PCM2001 (The Second IEEE Pacific-Rim Conference on Multimedia)は、中国の北京で行われる予定である。

IEEE PCM2000に関する情報は下記のホームページで得ることができる。

<http://www.ee.usyd.edu.au/ieee-pcm2000/>



図 シドニー湾ディナークルーズのバンケット